

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成28年2月18日(2016.2.18)

【公開番号】特開2014-211748(P2014-211748A)

【公開日】平成26年11月13日(2014.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2014-062

【出願番号】特願2013-87526(P2013-87526)

【国際特許分類】

G 06 Q 10/00 (2012.01)

G 06 T 19/00 (2011.01)

H 05 B 37/02 (2006.01)

【F I】

G 06 Q 10/00 1 3 0 Z

G 06 T 19/00 G

H 05 B 37/02 C

H 05 B 37/02 E

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月4日(2016.1.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ユーザが飲食物を摂取中であるか否か、またはユーザの周辺に飲食物が存在するか否かを判別する判別部と、

前記判別部による判別結果に応じて、実空間に存在する前記飲食物または前記飲食物の撮像画像に対して照明効果を付加する付加部に制御信号を出力するよう制御する制御部と、  
、  
を備える、情報処理装置。

【請求項2】

前記判別部は、さらに前記飲食物の種類を個別に識別し、

前記制御部は、個別に識別された各飲食物の種類に応じた照明効果を付加するための制御信号を前記付加部に出力する、請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記判別部は、さらに各飲食物に含まれる食材毎に種類を識別し、

前記制御部は、識別された前記飲食物の各食材に対して、種類に応じた照明効果を付加するための制御信号を前記付加部に出力する、請求項2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記制御部は、前記飲食物の撮像画像に対して、前記飲食物に含まれる食材毎に画像信号処理により照明効果を付加するための制御信号を前記付加部に出力する、請求項3に記載の情報処理装置。

【請求項5】

前記判別部は、前記ユーザの周辺を撮像した撮像画像に基づいて、前記ユーザが飲食物を摂取中であるか否か、または前記ユーザの周辺に飲食物が存在するか否かを判別する、請求項1～4のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項6】

前記付加部は、実空間に存在する前記飲食物に対して照明を行う照明部である、請求項1～5のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項7】

前記付加部は、実空間に存在する前記飲食物に対して投影を行うことで照明効果を付加する投影部である、請求項1～5のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項8】

前記付加部は、前記飲食物の撮像画像に対して画像処理を行うことで照明効果を付加する画像信号処理部である、請求項1～5のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項9】

前記制御部は、前記ユーザが飲食物を摂取中と判別された場合、または前記ユーザの周辺に飲食物が存在すると判別された場合、実空間に存在する前記飲食物または前記飲食物の撮像画像に対して所定の照明効果を付加するための制御信号を前記付加部に出力する、請求項1～8のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項10】

前記制御部は、複数のモードのうち設定された所定のモードに従って前記制御信号を生成する、請求項1～9のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項11】

前記複数のモードは、所定の各目的を達成するためのモードである、請求項10に記載の情報処理装置。

【請求項12】

前記所定のモードは、前記ユーザの健康状態または医療情報に応じて設定される、請求項10または11に記載の情報処理装置。

【請求項13】

前記所定のモードは、前記ユーザに装着された生体センサによる検知結果に基づくリアルタイムな健康状態に応じて設定される、請求項12に記載の情報処理装置。

【請求項14】

前記制御信号は、前記飲食物の陰影または色味を変化させる照明効果を付加するための制御信号である、請求項1～13のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項15】

前記制御部は、実空間に存在する前記飲食物または前記飲食物の撮像画像に対して、投影または画像処理により、前記飲食物の状態の良さ／悪さを演出するための画像を付加するよう指示する制御信号を前記付加部に出力する、請求項1～14のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項16】

前記制御部は、実空間に存在する前記飲食物が入っている食器若しくは当該食器の周辺、または、前記飲食物が入っている食器若しくは当該食器の周辺の撮像画像に対して、照明効果を付加するための制御信号を前記付加部に出力する、請求項1～15のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項17】

コンピュータを、

ユーザが飲食物を摂取中であるか否か、またはユーザの周辺に飲食物が存在するか否かを判別する判別部と、

前記判別部による判別結果に応じて、実空間に存在する前記飲食物または前記飲食物の撮像画像に対して照明効果を付加する付加部に制御信号を出力するよう制御する制御部と、

として機能させるためのプログラムが記憶された記憶媒体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0098

【補正方法】変更

**【補正の内容】****【0098】**

次いで、ステップS106において、サーバ30の判別部31aは、HMD1から送信された撮像画像を解析し、食事中であるか否か、または飲食物が存在するか否かを判別する。判別部31aは、判別結果を制御信号出力制御部31bに供給する。

**【手続補正3】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0109****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0109】**

次いで、ステップS206において、サーバ30の判別部31aは、HMD1から送信された撮像画像を解析し、食事中であるか否か、または飲食物が存在するか否かを判別する。判別部31aは、判別結果を制御信号出力制御部31bに供給する。

**【手続補正4】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0118****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0118】**

次いで、ステップS306において、サーバ30の判別部31aは、HMD1から送信された撮像画像を解析し、食事中であるか否か、または飲食物が存在するか否かを判別する。判別部31aは、判別結果を制御信号出力制御部31bに供給する。

**【手続補正5】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0127****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0127】**

次いで、ステップS406において、サーバ30の判別部31aは、HMD1から送信された撮像画像を解析し、食事中であるか否か、または飲食物が存在するか否かを判別する。判別部31aは、判別結果を制御信号出力制御部31bに供給する。

**【手続補正6】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0128****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0128】**

次に、ステップS409において、制御信号出力制御部31bは、判別部31aによりユーザ8が食事中、または飲食物が存在すると判別された場合、さらに飲食モードが複数設定されているか否かを判断する。飲食モードは、HMD1においてユーザ8により設定されてもよく、設定されている飲食モードを示す情報が上記S403で撮像画像と共にHMD1からサーバ30に送信される。また、飲食モードは、ユーザ8の健康状態または医療情報に応じて自動的に設定されてもよい。ユーザ8の健康状態は、ユーザ8に装着された生体センサ(不図示)によりリアルタイムに検知され得る。